

# 平成30年度 文化アセスメント 実施結果報告

2019（令和元）年10月

川崎市文化芸術振興会議

令和元年10月10日

川崎市長 福田 紀彦 様

川崎市文化芸術振興会議 会長 垣内 恵美子

### 平成30年度文化アセスメント実施結果の報告について

川崎市文化芸術振興会議より、川崎市文化芸術振興条例第8条に規定された文化アセスメントについて、平成30年度の実施結果を報告します。

文化アセスメントは、市民生活の充実やまちづくりの進展に向けて取り組まれている「第2期川崎市文化芸術振興計画」上の重要な事業を選び、それらの事業の取り組み内容について実地に確認を行いながら、事業の目的、文化芸術性、市民との関わり及び当該事業が効果的かつ効率的に実施されているか総合的に検証し、さらに目的達成のため改善すべき方向性などについて文化政策的提言を行うものです。

近年の文化行政を取り巻く状況として、2017（平成29）年に「文化芸術振興基本法」が「文化芸術基本法」に改正され、文化芸術の振興のみならず、文化芸術の社会的・経済的側面を視野に入れた文化芸術に関する施策の推進が図られることになりました。また、2018（平成30）年には「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が制定されました。こうした国の動向や社会状況の変化等に対応するため、本市では、2019（平成31）年3月に第2期川崎市文化芸術振興計画が改訂され、文化芸術を通じたダイバーシティ（多様性）とソーシャルインクルージョン（社会的包摂）の推進や更なる都市イメージの向上とシビックプライドの醸成を目指すこととなりました。

今回の文化アセスメントの対象については、考古、歴史、民俗、美術、映像等に関する多くの所蔵品を有し、市を代表するミュージアムの一つである「市民ミュージアム」と、文化芸術活動を通して高齢者の社会参加や生きがいを図る「プラチナファッションショー」を選定しました。その評価作業については、川崎市文化芸術振興会議の委員が個々の公演や講座、また、施設の活用状況等を視察し、事業関係者、担当行政部局等からのヒアリング及び意見交換なども実施しながら調査を進め、全体討議を経て、最終的に委員全員の合意により評価書を作成したものです。限られた時間と人的体制の中で実施されたものであり、個別には意を尽くせなかった部分も残りましたが、全体としては現時点で作成しうる最善の結果報告であると考えますので、この報告が川崎市における今後の関連施策に適切に反映されることを期待いたします。

# 平成30年度文化アセスメント実施結果報告

## 1 対象事業及びその選定理由

### A 市民ミュージアム管理運営事業

市民ミュージアム管理運営事業については、第2期文化芸術振興計画の基本目標3施策1「文化施設等の効果的な運営」に該当する事業であり、考古、歴史、民俗、美術、映像等に関する資料及び作品について収集、展示、調査研究等を行うこと等により、市民の観覧、学習、研究等の拠点となる施設であるとともに、その取組によって、市民相互の交流を推進し、市民の教育、学術及び文化の発展への貢献が期待される事業であるため。

### B プラチナファッションショー

プラチナファッションショーについては、第2期文化芸術振興計画の基本目標3施策3「文化芸術活動への市民参加の促進」に該当する事業であり、高齢者が文化芸術活動に参加し、発表を行える機会を提供することにより社会参加を進め、目標や生きがいを持ちながらいきいきと生活できるまちづくりへの貢献が期待される事業であるため。

## 2 評価結果

### A 市民ミュージアム管理運営事業

#### (1) 事業の目的・概要

担当課	市民文化局市民文化振興室	
振興計画上の位置づけ	基本目標 3	市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備
	施策 1	文化施設等の効果的な運営
事業概要	本市の歴史、民俗、絵画、映像等の資料や作品を収集、展示し、市民の観覧、学習・研究を進めるため、博物館と美術館の機能をあわせ持つ複合文化施設として「市民ミュージアム」を運営する。	
目的	考古、歴史、民俗、美術、映像等に関する資料及び作品について収集、展示、調査研究等を行うこと等により、市民の観覧、学習、研究等に資するとともに市民相互の交流を推進し、もって市民の教育、学術及び文化の発展に寄与する。(川崎市市民ミュージアム条例第1条より抜粋)	

#### 取組

番号	名称	概要
A 市民ミュージアム管理運営事業	市民ミュージアム管理運営事業	<p>1 施設の概要</p> <p>(1) 開館日 昭和 63 (1988) 年 11 月 1 日</p> <p>(2) 収蔵品 総点数 約 259,800 点 (考古：約 72,000 件、漫画：約 64,000 件、歴史：約 29,350 件など)</p> <p>(3) 主な施設 映像ホール (270 席)、逍遙展示空間、企画展示室、アートギャラリー、博物館展示室、ミュージアムライブラリー、研修室、アトリエ、体験学習室など)</p> <p>2 事業内容</p> <p>(1) 企画展示・上映事業 (企画展：18 回実施 企画上映：16 回実施) (主な企画展) 「かこさとしのひみつ展」、連載 50 周年記念「さいとう・たかをゴルゴ 13」展、「ビッグコミック 50 周年展」、「2018 川崎フロンターレ展」、「発掘された日本列島 2018 新発見考古速報」 (主な企画上映) 映画における川崎の情景 開館 30 周年記念 「映像のまち・かわさき」フェスティバル 2018 連携、ソヴィエト映画特集 開館 30 周年「都市と人間」コレクション展連携上映</p> <p>(2) 教育普及事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代から近代までの多彩なテーマで約 100 件のワークショップ・講座を実施</li> <li>・社会教育推進事業・出張・来館スクールプログラム・職場体験の受入れ・中学校創造展・大学との連携事業・アトリエ指導員展・学芸員実習事業受入れ・ボランティア事業・鑑賞教育の推進</li> </ul>

## (2) 評価

取組への評価
<b>A 市民ミュージアム管理運営事業</b>
<b>(1) 事業の目的（設定の妥当性、達成度、達成手段の妥当性）</b> <p>地域の歴史・伝統・文化に関する資料の収集・調査研究活動や、施設の特徴を踏まえた企画・展示、アウトリーチ活動、教育普及事業等の実施を通して文化芸術活動の推進に取り組むことにより、文化芸術振興計画の基本目標の1つである「市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備」への貢献が見込まれ、目的等の設定は妥当である。</p> <p>また、川崎の考古・歴史・民俗に関する資料や写真・漫画・映像等の資料といった多岐にわたる分野において資料収集がなされ、収蔵品を活かした展示や地域特性、独創性を持った企画展が行われている。また、企画展示の見直しにより総利用者数の増加がみられ、より多くの市民に文化芸術に触れる機会を創出している。</p> <p>さらに、事業目的の達成に向けて、市民ミュージアムが蓄積してきた豊富な収蔵品を活用した企画展を開催し、企画展示室だけでなくアートギャラリーや映像ホール等でも企画を連動させるなど、市民ミュージアムが持つ多様な機能を活用しながら広く市民に公開している。また、武蔵小杉駅周辺のエリアマネジメントを行う団体と連携するなど、地域との連携や市民相互の交流の促進、教育普及事業にも創意工夫をもって取り組んでいることは評価できる。</p> <p>一方、施設の規模が大きく、かつ、様々な分野の収蔵品を有していることや常設展の一部は作り付けになっているものも多いことなどから、事業分野の選択と集中という戦略が取りにくく、資料・作品の調査研究や学習等については、その収蔵点数の多さから見て、十分とはいえない状況である。</p>
<b>(2) 文化芸術性（独創性、育成支援）</b> <p>コミックや映画など多様な市民ニーズに応えうる可能性を指定管理者が意識した活動になっているが、市民ミュージアムだからこそ行える異分野の組み合わせ（映像、民俗博物館、近現代美術館）には工夫の余地がある。</p> <p>博物館展示は、地域性に加えて、近現代の風俗や慣習など急速に失われつつある地域の記憶に関する展示は大変興味深いものであり、特に中世・近世以降は川崎オリジナルな部分が多く見られた。博物館の常設展（民俗・歴史）が作り付けとなっており、開館以来展示替えができていないことについては、今後改装などの機会をとらえての検討が望まれる。</p> <p>また、社会科教育推進事業として、小学校85校の社会科見学を受け入れているほか、かわさき市美術展の継続実施や市民向け講座・ワークショップの開催など、市民の文化芸術活動への参加や育成支援を続けていることは評価できる。</p>
<b>(3) 市民とのかかわり（参加、満足度、周知度）</b> <p>博物館展示ガイド、美術館展示ガイドや講座イベント、子育て支援、学校対象事業のサポート等にボランティアが参加している。今後、武蔵小杉駅周辺の新居住者を取り込むような仕掛けや、年間パスポートの販売・賛助会員制度など、地域住民の関わりを増やし、来館や利用頻度を上げるための取組が必要である。</p> <p>また、カフェやレストラン、ショップの充実が市民満足度につながることもあり、集客の観点からも、飲食店の誘致や物販の充実の検討が引き続き必要である。</p> <p>さらに、外国人市民が増加していることや、インバウンドを取り込むためにも、企画展やイベント告知について、外国語での情報提供が必要である。また、こうした外国人来館者のためにも、キャプションボードにも外国語表記が必要である。</p>
<b>(4) 効率・効果（波及効果、施設の利用管理、連携協働、費用の効率化）</b> <p>地域のエリアマネジメントを行う団体の事業に参加し、市民ミュージアムのブランドイメージを定着させる試み等は、新たな広がりが期待できる。また、地域との連携や市民相互の交流の促進、教育普及事業においても創意工夫がなされているほか、「フロンターレ展」、「発掘された日本列島」など企業や国との連携や、収蔵品をデータベース化して全国の博物館等と情報共有をすることで収蔵品の有効活用を図るための取組がなされている。</p> <p>指定管理者制度を導入し、来場者数の増加など改善が図られてきているが、平日の来館者増につながるサービスを実施するなど、更なる利用者増に向けた対策が求められる。</p> <p>施設については、よく清掃等が行き届いているものの、特にトイレ設備について老朽化が目立ち、対応が必要である。</p>

総合評価	<input type="checkbox"/> A : 継続	<input checked="" type="checkbox"/> B : 改善	<input type="checkbox"/> C : 見直し
------	---------------------------------	--	----------------------------------

### 評価の理由等

市民ミュージアムの設置目的に沿って、考古、歴史、民俗、美術、映像等に関する資料及び作品について収集、展示、調査研究等が行われており、収蔵品を活かした展示や地域特性、独創性を持った企画展が開催されている。指定管理者制度を導入し、企画展示の見直しにより総利用者数の増加がみられ、より多くの市民に文化芸術に触れる機会を創出していることは評価できる。

また、小学校の社会科見学の受け入れやかわさき市美術展の継続実施などの教育活動や育成支援への取組、さらには、ボランティアの育成や地域との連携にも創意工夫を持って取り組む姿勢は評価できる。

一方、施設規模や収蔵品の多さから見るとそれらの活用には工夫の余地があるといえる。今後も、地域のミュージアムとして、より多くの市民の来館の促進や、施設や収蔵品の幅広さといった市民ミュージアムの特性を活かした事業運営が望まれる。

### 提言

- ・大規模な施設や多種多様な収蔵品を活かした市民ミュージアムならではの企画や調査研究をさらに進めていく必要がある。そのためには、企画や資料管理などを行う学芸部門の強化が必要である。

- ・更なる来館者の増加や来館者満足度の向上に向けて、年間パスポートの販売や賛助会員制度、利用者の少ない平日の来館者に対する追加サービスなど、地域住民の関わりを増やしつつ、来館者数や利用頻度を上げるための取組が求められる。

- ・採算性や設備状況などにより、カフェやレストランの併設が困難なことは理解しつつも、現状の飲食販売では十分とは言えないため、キッチンカーの更なる誘致など飲食サービスを充実する必要がある。

- ・多様で多彩な施設の活用と企画をさらに充実していくことに加えて、増加する外国人市民に向けたパンフレットや作品解説の多言語対応や子育て世代に向けたベビーカートウアーの充実など、アクセスが決して良くない状況の中でも、あらゆる人が来館し、楽しめる施設とするためのミュージアムの魅力アップにつながる取組が必要である。

## B プラチナファッションショー

### (1) 事業の目的・概要

担当課	市民文化局市民文化振興室	
振興計画上の位置づけ	基本目標 3	市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備
	施策 3	文化芸術活動への市民参加の促進
事業概要	シニア世代(65歳以上)を対象に参加者を公募し、集まった参加者が、ウォーキングやフォーメーションなどのレッスンを受け、実際にファッションショーに出演する場を設けることで、高齢者の文化芸術活動や社会参加の促進を図り、目標や生きがいを持ちながらいきいきと暮らせるまちづくりを目指す。平成25年度の第1回(川崎区)から毎年1回、開催場所(区)を変えて実施している。	
目的	シニア世代がファッションショーに出演し、スポットライトが輝くランウェイを音楽に合わせて歩き、その様子を映像として記録にとどめることにより、心と体の健康づくりを図るとともに、新たなことに挑戦することにより、さらなる生きがいや楽しみを発見する。	

### 取組

番号	名称	概要
A プラチナファッションショー	プラチナファッションショー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日時 2月23日(土) 午後2時～4時</li> <li>・場所 多摩市民館 大ホール</li> <li>・来場者数 630人</li> <li>・協賛企業 20団体</li> <li>・出演者 市内在住の65歳以上の方52名(うち男性7名) 【最高齢88歳 平均年齢76歳】 川崎区2名、幸区2名、中原区5名、高津区7名 宮前区7名、多摩区24名、麻生区5名</li> <li>・レッスン 1月25日(金)～2月22日(金) (ウォーキングやフォーメーションなど5回実施)</li> <li>・演出 映像と音楽の活用 (ライブ投影・音楽に合わせた出演者コメント紹介) 特別ステージ 多摩川音頭 (協力:多摩区老人クラブ連合会)</li> <li>・主催 プラチナファッションショー2018実行委員会 /川崎市</li> </ul>

## (2) 評価

取組への評価
<b>B プラチナファッションショー</b>
<b>(1) 事業の目的（設定の妥当性、達成度、達成手段の妥当性）</b> <p>本事業はシニア世代（65歳以上）の市民がファッションショーに出演し、心と体の健康づくりを図るとともに、新たなことに挑戦することにより、さらなる生きがいや楽しみを発見することを目的に実施しており、毎年開催場所（区）を変えて市内全域での事業展開を図るなど、川崎市文化芸術振興計画の基本目標の一つである「文化芸術活動への市民参加の促進」を目指す取組である。</p> <p>また、シニア世代の活力を維持し、地域の活性化につなげるとともに、文化芸術を通して高齢者の孤立防止や社会参画といった社会的な課題に取り組んでおり、実際、参加者エピソードの中には、家に引きこもり気味な高齢者が外に出るきっかけとなったという意見も見られた。</p> <p>一方、受入れ人数が限られていることや参加者自身が衣装を用意することなどにより参加者数が伸び悩み、結果として参加の広がりが見られなくなっていることから、今後は、関係企業・団体等との協力や、他のイベント等とも連携しながら、より多くの出演者と観客の確保につながるよう仕組みを検討する必要がある。</p>
<b>(2) 文化芸術性（独創性、育成支援）</b> <p>ファッションショーでは、和装、カジュアル、フォーマルの3部門が設けられ、それぞれの衣装に対する参加者の思いや衣装にまつわる思い出を演出に取り入れて、観客に感激を与えるような構成となっていた。このような内容は市民が出演するファッションショーという本事業ならではのといえる。</p> <p>また、講師にプロのモデルを招いてのレッスン、リハーサルを経て本番に臨むという非日常の体験は、参加者にとって貴重なものとなっている。</p> <p>今後は、現在の「シニア世代の文化芸術活動への参加」という視点に加えて、例えば、若手のデザイナーやメイク・スタイリングの専門学校生等と連携するなど世代間交流や若手の育成支援といった観点も重要と考える。</p>
<b>(3) 市民とのかかわり（参加、満足度、周知度）</b> <p>実行委員会は、開催区の町内会連合会や区社会福祉協議会、区老人クラブ連合会、区文化協会などにより組織され、各組織が参加者募集やイベント周知に主体的に取り組んでいた。</p> <p>また、参加者が活き活きと楽しそうに舞台に立ち、アンケートでは約9割が「とても楽しかった」あるいは、「楽しかった」と回答している点からは、参加者の満足度が高いことが伺える。</p> <p>しかしながら、初参加の人数だけでなく全体の参加者数自体も開催当初に比べ伸び悩んでいることや、参加者の男女比を見ると圧倒的に男性の参加者が少ないことなど、市の取組という観点からすると参加者が極めて限定的であり、本事業が目指す高齢者の文化芸術活動や社会参加といった効果がごく限られた範囲となっている状況にある。</p>
<b>(4) 効率・効果（波及効果、施設の利用管理、連携協働、費用の効率化）</b> <p>特定の区のみで実施するのではなく、毎年開催区を変えながら、市全域での展開が図られている。</p> <p>また、参加者に新たな交友関係が生まれ、地域での知り合いやつながりができる様子が見受けられたことについては、高齢者の孤立防止や社会参加の促進といった本事業の効果がみられた。</p> <p>しかしながら、参加者数が限られている現状では、こうした事業効果もごく限られたものであると言わざるを得ない。また、参加者数からすると予算規模が大きいこと、舞台関係などがまとめて委託されており費用の詳細が不透明であることなど、費用対効果や予算の使い方にも課題がある。</p> <p>このような点から、今後は、参加者増に向けた方策に加えて、関係企業・団体等との協力や、他のイベント等との連携の可能性についても検討する必要がある。また、事業費については、企業等から協賛金を募るとともに、参加者からも費用負担を求めているものの、参加人数に対する費用対効果や費用の透明性の観点から、より効率的・効果的な執行が求められる。</p>

総合評価	<input type="checkbox"/> A : 継続	<input type="checkbox"/> B : 改善	<input checked="" type="checkbox"/> C : 見直し
<p><b>評価の理由等</b></p> <p>本事業は、シニア世代がファッションショーという非日常の体験を通じて楽しさを感じ、今後のさらなる生きがいや楽しみを発見することを目的として、シニア世代の活力を維持し地域の活性化につなげるものであり、文化芸術を通して高齢者の孤立防止や社会参画といった社会的な課題に取り組むなど、川崎市文化芸術振興計画の基本目標の一つである「文化芸術活動への市民参加の促進」を目指す取組である。</p> <p>参加者の社会参加や地域におけるつながりづくりのきっかけとなっている様子が見られたり、出演者のエピソードを盛り込んだ演出などは市民が出演するファッションショーという本事業の特色も見られるが、受入れ人数が限られていることや自身で衣装を用意するなど参加者の負担が大きいことなどから参加者数が伸び悩んでいる。また、新規の参加者もあまり増えずにリピーターの出演が多いなど、現状では広く高齢者が生きがいや楽しみを発見する場になっていると言いはし難い。さらに、費用対効果の問題など事業実施上の課題もあることから、より多くの人に参加し、世代間交流などにもつながるよう抜本的に見直す必要があると考える。</p>			
<p><b>提言</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行事業は、参加者の満足度は一定程度得られているものの、参加者数は極めて限られており、事業効果の広がりが見られていない。また、費用についても舞台関係をまとめて委託しているなど詳細が不透明といった課題があるため、今後は、事業効果及び費用対効果の観点に留意しながら、実施の主体や手法を含め抜本的に見直す必要がある。</li> <li>・見直しにあたっては、若手の育成支援、企業や団体、他のイベント等との協力・連携などの視点が必要である。</li> </ul>			

平成30年度文化アセスメント実施結果報告書  
2019（令和元）年10月

川崎市文化芸術振興会議

（事務局） 川崎市市民文化局市民文化振興室  
〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町11-2  
電話 044-200-2029  
FAX 044-200-3248